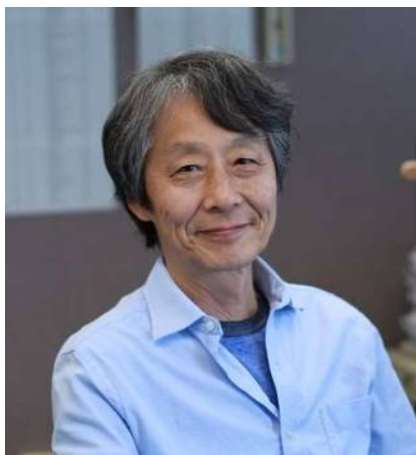


「ノーベル賞候補」引用栄誉賞、米眼病研究所の彦坂氏ら受賞

レポート 2024 年 9 月 19 日（木） 土谷純一（m3.com 編集部）

クラリベイト・アナリティクス社は 9 月 19 日、近い将来のノーベル賞候補者として注目される「クラリベイト引用栄誉賞」の 2024 年の受賞者 22 人を発表した。生理学・医学分野で、日本人では米国立眼病研究所の彦坂興秀氏が選ばれ、「運動制御や学習行動の中心となる大脳基底核の生理学的研究」が評価された。



米国立眼病研究所の彦坂興秀氏
（提供：クラリベイト社）

彦坂氏は、米マサチューセッツ工科大学の Ann M. Graybiel 氏、英ケンブリッジ大学・米カリフォルニア工科大学の Wolfram Schultz 氏との共同受賞。2010 年に Neuron 誌に発表した論文は引用回数が約 1500 回で、大きな影響を与えたと判断された。

米国立眼病研究所のウェブサイトによると、彦坂氏は東京大学で医師免許と医学博士号を取得。米眼病研究所を経て、1979 年に東邦大学医学部で助教授に就任し、1988 年には自然科学研究機構生理学研究所で教授に、1993 年に順天堂大学医学部で教授となった。2002 年に眼病研究所に戻り、Senior Investigator および神経ネットワーク部門の責任者として勤務し、2011 年にはアメリカ芸術科学アカデミーの会員に選出されている。

クラリベイト社の David Pendlebury 氏は「彦坂先生は脳基底核の特定の領域が自発的な眼球運動や複雑な手の動きに関連していることを説明された。脳の生理学、左の基底核と関連構造、記憶と報酬、運動と動機付けを結びつけるとともに、脳基底核の機能不全の発見は、うつ病や依存症を含む多くの精神疾患の理解にも役立っている」と説明した。

引用栄誉賞受賞者 75 人がノーベル賞受賞

引用栄誉賞は近い将来のノーベル賞候補者として注目され、2002 年以降毎年発表されている。1970 年以降 Web of Science に掲載された 6100 万件以上の論文のうち、0.015% に当たる 2000 回以上引用された論文の著者から、研究への貢献度や注目領域かどうかなどの定性的な要素を加味してクラリベイト社の専任アナリストが分析し、受賞者を決定する。

引用栄誉賞の受賞者のうち、これまでに 75 人がノーベル賞を受賞している。日本人では 2012 年に医学・生理学賞を受賞した山中伸弥氏、2014 年に物理学賞を受賞した中村修二氏、2016 年に医学・生理学賞を受賞した大隅良典氏、2018 年に医学・生理学賞を受賞した本庶佑氏の 4 人が、引用栄誉賞を受賞した後にノーベル賞を受賞した。